

学習の前にアイスブレイキング

参加体験型学習の場では、参加者が、初めてその場で他の人と出会うことになり、とても緊張しながら臨んでいる人も多いと思います。

そこで、メインアクティビティに入る前に、参加者の心の緊張を解きほぐし、コミュニケーションを円滑に行うためにアイスブレイキングを取り入れます。

このことにより、参加者同士が、お互いに知り合い、人と人がつながるきっかけとなります。

また、アイスブレイキングを通じてグループづくりをすることもできます。

今回は、たくさんある中の一例として紹介し、グルーピングにつなげていただきたいと思います。

**参加者の心の緊張を解きほぐし
楽しい学習を進行しましょう**

アイスブレイキングの例

「心をつなぐビリビリ新聞」

「誕生日チェーン」

「頭文字で自己紹介」

「肩たたきで自己紹介」

心をつなぐビリビリ新聞

【進め方の例】

①グループ数と同だけの新聞紙を準備し、予め、それぞれの新聞紙をグループの人数の数に破っておきます。

例：1グループが6人であれば、1枚の新聞を6ピースに破り、30人の参加者の場合は、5枚の新聞紙をそれぞれ6ピース、合計30ピースに破ることになります。

②活動中は、絶対に声を出さないよう伝えます。

③準備しておいた新聞紙を1人に1ピースずつ配ります。

④自由に動き、協力して、各テーブルに元の1枚の新聞紙を完成するよう伝えます。

⑤全てのテーブルで完成したら、何人かの人に感想を聞いた後、それぞれの新聞紙を完成させた人が同じグループになって活動することを伝えます。

誕生日チェーン

【進め方の例】

- ① 予め、教室内の後方に、参加者が円形に集まることができるスペースを確保しておきます。
- ② ファシリテーターが、自分の誕生日を伝え、ファシリテーターを基点にして、時計回りに誕生日順に円形に並ぶことを伝えます。
活動中は、絶対に声を出さないでゲームを行うことも併せて伝えます。
- ③ 参加者の各人が、自分の誕生日を、身振り・手振りで相手に伝え、互いに確認し、協力しながら一つの円をつくってもらいます。
- ④ 円が完成したら、「誕生日、名前、どこから来た」を順番に、自己紹介してもらいます。
- ⑤ 当日のグループ数で順に番号を繰り返し言ってもらい、グループ分けをします。
例：5つのグループに分ける場合は、「1, 2, 3, 4, 5 1, 2, 3, 4, 5」の順で番号を繰り返し言うことになります。

頭文字で自己紹介

【進め方の例】

- ① 予め、教室内の後方に、参加者が円形に集まることができるスペースを確保しておきます。
- ② 参加者全員で、円形に並んでもらいます。
- ③ 名前（姓）の最初の文字から始まる自分を表現する紹介する文を即興で考えて、順番に発表してもらいます。
例：山田（やまだ）さんであれば、「やさしく、笑顔を絶やしたことがない、山田です。」をいうように自己紹介する。
- ④ 一巡したら、当日のグループ数で順に番号を繰り返し言ってもらい、グループ分けをします。
例：5つのグループに分ける場合は、「1, 2, 3, 4, 5 1, 2, 3, 4, 5」の順で番号を繰り返し言うことになります。

肩たたきで自己紹介

【進め方の例】

- ① 隣の人と二人ずつ組になり、互いに名前を紹介し合います。
- ② 一方が先に、自己紹介し、相手の人の肩をたたきます。（紹介を含め、2分程度）
- ③ 交代して、②の活動を繰り返します。
- ④ 自己紹介と肩たたきが終わったら、当日のグループ数で順に番号を繰り返し言ってもらい、グループ分けをします。
例：5つのグループに分ける場合は、「1, 2, 3, 4, 5 1, 2, 3, 4, 5」の順で番号を繰り返し言うことになります。